

【質疑応答】

質問者 1：近年、公共交通機関において LED 電光掲示板の普及が進んでいるが、高次脳機能障害者にとって、これらの見る対象が流れる文字であることの有効性についての研究はあるのか。

講師 1：高次脳機能障害者の認知機能や脳への刺激の基礎調査はあるが、それらの研究はまだない。

質問者 2：①高次脳機能障害者にも子ども用 Suica を使えるようにするべきとはどういうことか。②テキストマイニングツールの見方を説明してほしい。③高次脳機能障害者における運転免許の問題について解説してほしい。

講師 1：①子ども用 Suica とは障害者割引が適用されることである。②テキストマイニングツールの結果は関連性や文言のつながりが強い場合に線を太く表している。

講師 2：③現在、息子は運転をしているが、様々な方が高次脳機能障害者の運転について研究されている。特に、蜂須賀先生（産業医科大学）が有名である。しかし、親の立場では運転はさせたくないという家族が多いが、特に地方では運転しないと仕事にいけないなどの事情もある。てんかんや睡眠時無呼吸症候群などとともに判断が難しいところがある。

講師 1：③は、作業療法士内でも大きな問題となっている。現在は、訓練をしながら、どのくらい運転が可能か判断している。

事務局：①福岡市等の交通局で発行している交通系 IC カードでは障害者割引に対応している。しかし、昨年度 IC カードの全国共通化を行ったが、割引情報が統一されていないことから、市の交通局が発効している IC カードはその地域でしか、利用できない状況である。

質問者 3：高次脳機能障害者は高齢者の対応と類似していると言われているが、駅構内図のわかりにくさを解消するにはどのようにすればよいのか。

講師 1：自由回答には、案内サインの位置の是正（低い場所に設置する）や、文字が小さいという指摘がある。

質問者 4：脳科学から見た障害者にとって認知に有効なものはあるのか。

講師 1：高次脳機能障害者も、知的障害、発達障害、精神障害などとともに、共通する項目（対応）を増やしていくことが必要である。ただし、各障害者に特有な問題には配慮が必要であり、例えば、高次脳機能障害者であれば、ひらがながわからないので、漢字の表記も必要である。また、失語症者には、コミュニケーション支援ボードのような絵記号が有効であるが、当事者意見として改善の余地がまだある。

以上